子どもの学びを創る会　第２回例会記録

１　日　時　２００４年８月２７日　18:00～20:30

２　場　所　長門市中央公民館　第１会議室

３　参加者　２２名

４　話題提供

第６学年国語科「言葉と文化でトリビアの泉を開こう」

豊北町立神玉小学校　　吉谷　亮　先生

話題提供の内容

①　神玉小学校の研究主題「確かな学力を身に付け，主体的に学ぶ児童の育成」を目指すために，2 学期に行なう授業案の提供であった。

②　国語科における評価規準の作り方と指導計画・評価計画の様式案の提供だった。

③　「座席表カルテ」を使ったり本時の子どもの姿を想定－評価指標(rubric)の考え方の導入－したりして，関心・意欲・態度の評価を試みる。

協議の主な内容　（順不同をお許しください）

○　単元のはじめに，数取り団ゲームなどゲームを行ない，日本語に対して不思議なことや調べてみたいことを引き出し，それらを課題としてどのようにまとめるかという単元の流れの中で，教材文の位置付けが問題になった。

一次のゲームの役目は何か，二次の教材文「外来語と日本文化」の扱いはどうすればよいかなど，参加者のみなさんと単元の流れを子どもたちの目線で考えた。また，三次では，「自分の課題についてまとめる方法を考える→課題について調べる→課題についてまとめる」と考えられていたが，「課題について調べて，まとめる方法を考えて，まとめる。」と，考えた方がよいのではという意見もあった。さらに，単元の目標と学習内容の整合が図られていないのではという意見もあった。

○　指導案の中に，５ 評価規準とし，「単元の評価規準」と「学習活動における具体の評価規準」「評価方法」「発展的学習に取り組む児童及び努力を要すると判断される児童への手だてと構え」の内容で教師の評価の構えが書かれていた。また，見開きで，６ 学習計画と７ 評価計画が書かれ，単元全体の子どもの主体的な学びと評価計画が分かるように工夫されていて，参考になった。

○　授業者は，主体的な学びを創るためには，子どもの関心・意欲が非常に大切であり，その見取りが左右するとの説明には，異論はなかった。しかし，本時の子どもの姿を想定する際のより所は何かが，よく分からないという意見もあった。そもそも，単元の評価規準はどのような手順で生み出されたものか，考える必要がある。

５　何でもトーク

・　10 年経験者研修会の資料から

8 月はじめに実施された 10 年経験者研修会の社会科部でも，評価の問題があげられたそうだ。もっと継続的な評価の方法を考えると同時に，簡便性も視野に入れて実施することで，客観性・信頼性がより高まってくる。